

家の お手入れ



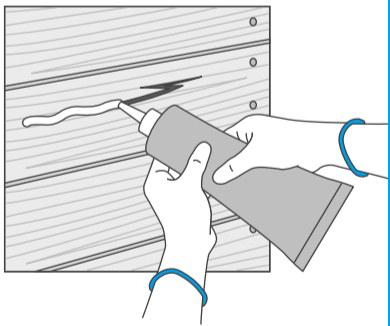
屋外木部の塗装

直射日光や雨風にさらされる羽目板、戸袋、雨戸、濡れ縁など屋外の木部。塗装がはがれたまま放置しておくと、雨染みやヒビが入り、構造物を腐らせる原因になります。住まいを長持ちさせるためにも、2～3年に1度を目安に塗り替えましょう。

塗装の前に

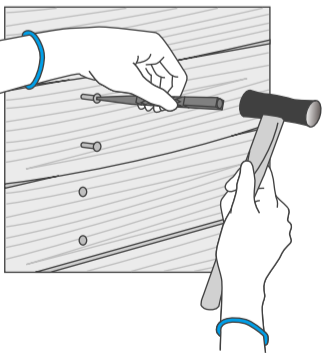
割れやヒビ割れに 充てん剤をつめる

割れやヒビがある場合は、その部分を充てん剤で埋めてから塗装作業にかかる。変成シリコン系を用いる場合は、1日置いてから1週間以内に、ポリウレタン系の場合は埋めてから3日以内に塗料を塗るようにする。



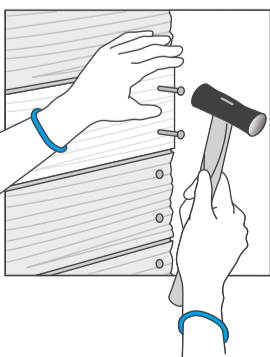
クギを打ち直す

板が反ってクギが浮き上がっているような場合は、クギシメを使って打ち直す。また、クギが腐っていたら抜いて、新しいクギで打ち直すようにする。



割れた部分の板を替える

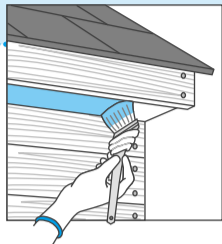
板が割れてなくなっているような部分は、同じ厚さの板をその部分の大きさに切って、クギ止めをする。



高い箇所を塗る際の注意点

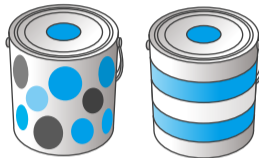
ハケの柄の部分にボロ布を巻いて輪ゴムで止めておくと、高い箇所を塗っている時にハケから塗料がたれてくるのを防ぐことができます。

はしごや脚立を使って塗る場合は、バランスを崩さないように安全に十分注意して行いましょう。塗料の缶はS字の金具などではしごに吊るしておくようにすると、両手をふさがずに済みます。



屋外木部用塗料の種類と選び方

屋外の木部を塗るのに適した耐候性に優れている塗料は、数種類あります。仕上がりのイメージに合わせて選んでください。



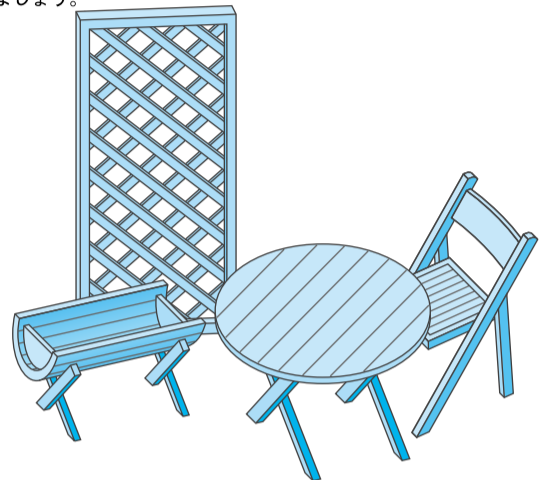
塗料の種類	うすめ液	特徴
水性外部ステイン塗料	水	水性のため扱いやすく、屋外の木部に最もよく使われている塗料で、トレリスや木製プランターなどガーデニング用品にも使いやすい。木目の見えにくい仕上げで、つやありタイプとつや消しタイプがある。
水性つやあり塗料	水	色が豊富なので、白、黄色、青、緑など、鮮やかな色を塗りたい場合に最適。つやありなので、仕上がりの発色もよい。
水性多用途塗料	水	半つやに仕上げたいときに。この塗料も水性つやあり塗料と同じ色が豊富。
建物用塗料	ペイントうすめ液	色が豊富で、つやのある仕上がりになる油性塗料。水性は1～2時間で乾燥するのに対し、油性は6～10時間かかる。
外部用ニス	ペイントうすめ液	透明ニス。つやのある木目の見える仕上がりになる。
防虫防腐ステイン	ペイントうすめ液	木に浸透して防虫防腐効果を持続する塗料。木目が見える着色仕上げになる。

屋外木部の 塗装

One Point Advice

ガーデニング用品もペイントでメンテナンス

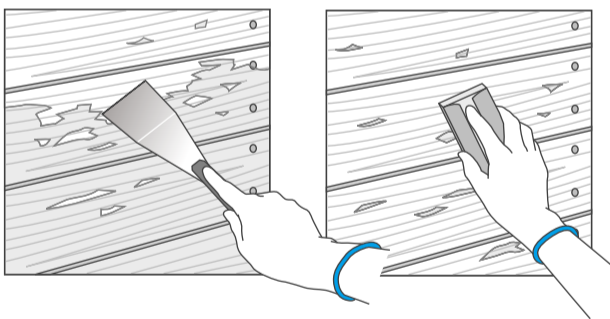
屋外木部用塗料を使って塗装できるのは住宅だけではなく、トレリスやウッディ・プランターといった木製のガーデニング用品、また木製のテーブル&チェアなどもこれらの塗料で塗り替えることができます。使っているうちに汚れが染み込んでしまったガーデニング用品もペイントしてリフレッシュさせましょう。



塗装作業

1 古い塗料をはがす

塗膜が浮いているような場合は、スクレーパーか皮スキではがれた塗膜を削り落としてから、ワイヤーブラシか80番くらいのサンドペーパーを木片に巻いたものでこすって古い塗膜を落とす。こすり終わったらデッキブラシなどでもう一度こすってホコリや塗膜のカスを落とすように。



3 塗料をよく混ぜる

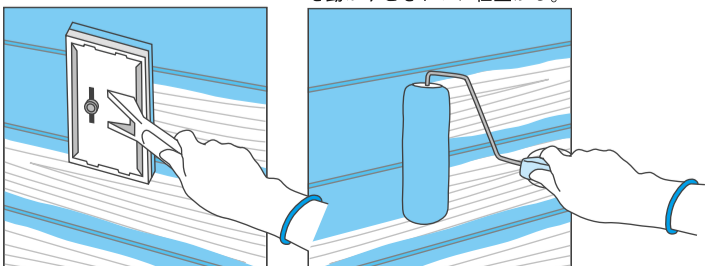
顔料がしずんでいるので、割り箸などでよくかき混ぜて均一にする。また、塗料が濃すぎてベタついているように感じるときは、塗料にあっとうすめ液で適切な濃度に調整する。このとき、水性塗料は万が一薄め過ぎた場合にも対処できるように、使用する分だけ別容器に移して薄めること。塗料は塗る前と乾燥後では色合いがかなり変化する。缶を開けたときに見本と色が違ってみえても乾燥後はほとんど同じ色になるので心配ない。



5 全体を塗る

平らな部分は、コテバケで。凹凸がある面や、早く塗りたい場合は、ローラーバケで塗る。どちらも、つぎ柄がつけられるので、高い所を塗る場合も便利。

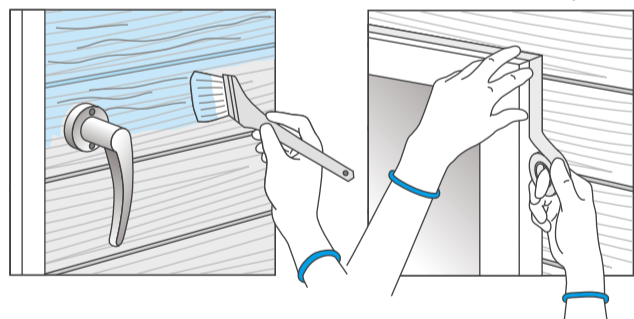
塗る場合、最初は縦横いろいろ塗ってもいいが、最後の仕上げの際には、横板の場合は横向きに、縦板の場合は縦向きにコテバケやローラーバケを動かすときれいに仕上がる。



きれいに塗膜を落としたい場合は、塗料はくり剤を使うとよい。塗料はくり剤を塗ってからしばらく置き、古い塗料が浮き出てきたらヘラでそぎ落とす。一度できれいにはがれない時は、はくり剤を塗ってそぎ落とす、を繰り返すとよい。その後、ワイヤーブラシかサンドペーパーをかけて塗装面をなめらかにする。

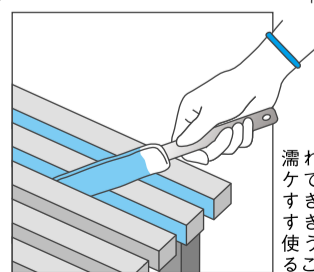
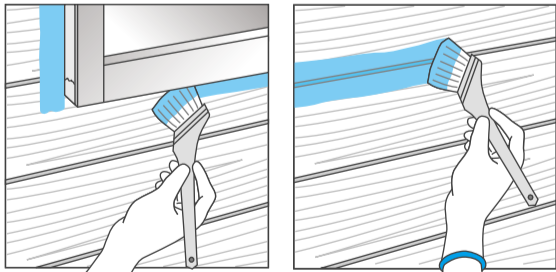
2 マスキングする

外壁のしっくい部分やサッシの窓枠など、塗料がついて困る箇所は、マスキングテープやビニールシートなどでマスキングする。また下も塗料がたれてもいように新聞紙やダンボール紙を敷く。



4 塗りにくい部分から塗る

コーナー部分や窓枠の周辺、板の継ぎ目など塗りにくい部分から、スジカイバケで塗る。このとき、特に傷んでいる箇所も塗っておくと、その部分の塗膜が厚くなるので防水効果が長続きする。



濡れ縁など、ハケで塗りにくいすきま部分は、すきま用ハケを使うと簡単に塗ることができる。

6 乾燥させる

塗り終わったから、『ペンキ塗りたて』の標記を忘れずに。塗料が乾いたらもう一度重ね塗りして耐久性を高めるとよい。